

教育関連学会連絡協議会 2023年度公開シンポジウム

大学における教員養成の未来

－「グランドデザイン」をめぐって－



「グランドデザイン」の 提言と「モデル化」： カリキュラムの観点から

2024/03/09

岩田康之（東京学芸大学）

iwatay@u-gakugei.ac.jp

基本的な考え方

◎ 日本の「大学における教員養成」の多様性を尊重

「開放制」原則下でさまざまな大学が教員養成に参画している

それぞれのカリキュラムの構成原理が異なる→統一的な「モデル」を示す困難

⇒「エッセンシャルカリキュラム」という示し方（基本理念+留意点）

中途入職者（社会人経験者等）の存在も想定（教職特別課程）

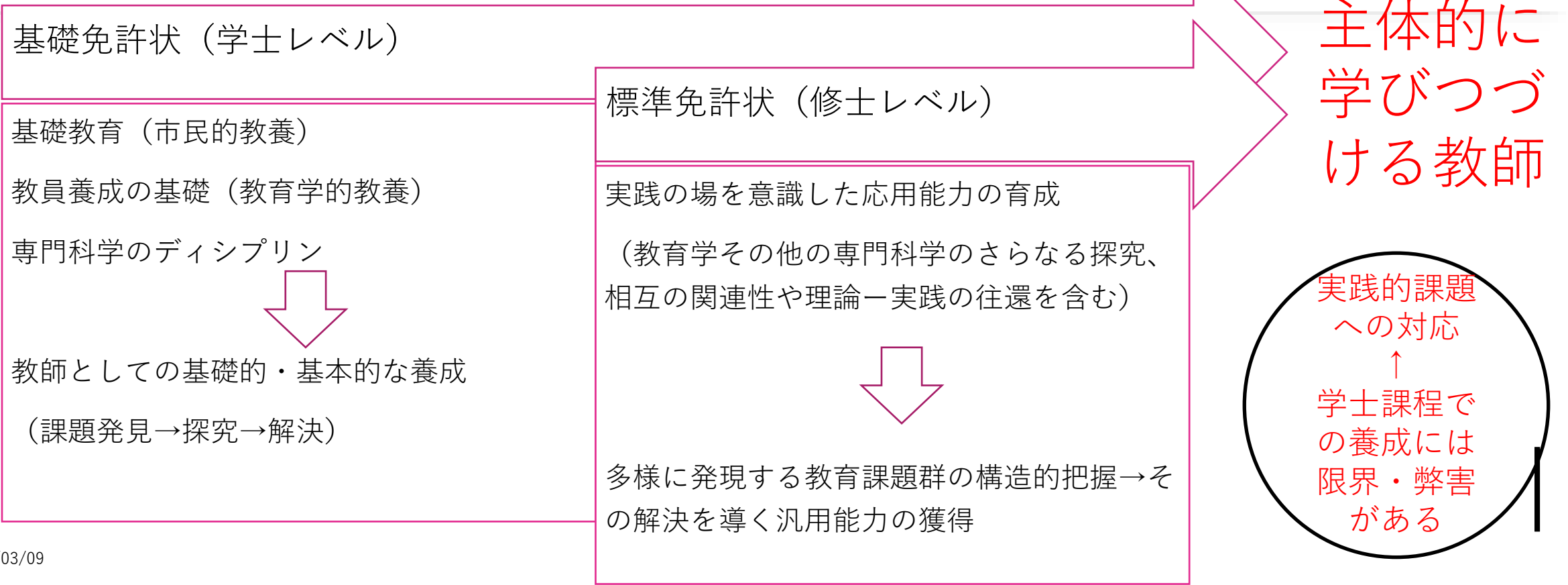
◎ ベースとしての学士課程

「大学における教員養成」の主要な含意＝「学士課程」以上での養成

昨今の状況を鑑みるに「学士」を超えるレベルでの養成も想定するのが妥当

⇒共通の「基礎」としての学士課程≡「基礎免許状」／多様な「+α」としての修士レベルでの養成

教師教育カリキュラム（全体イメージ）



- ◎◎は重要な教育課題だから→
- ◎◎を扱う授業を教職課程で必修化すべき？
- ◎◎が「教職課程コアカリキュラム」に入らないのはおかしい？

「重要な教育課題」を見極めるのは誰か？

◎◎というコンテンツの必修化は有効か？

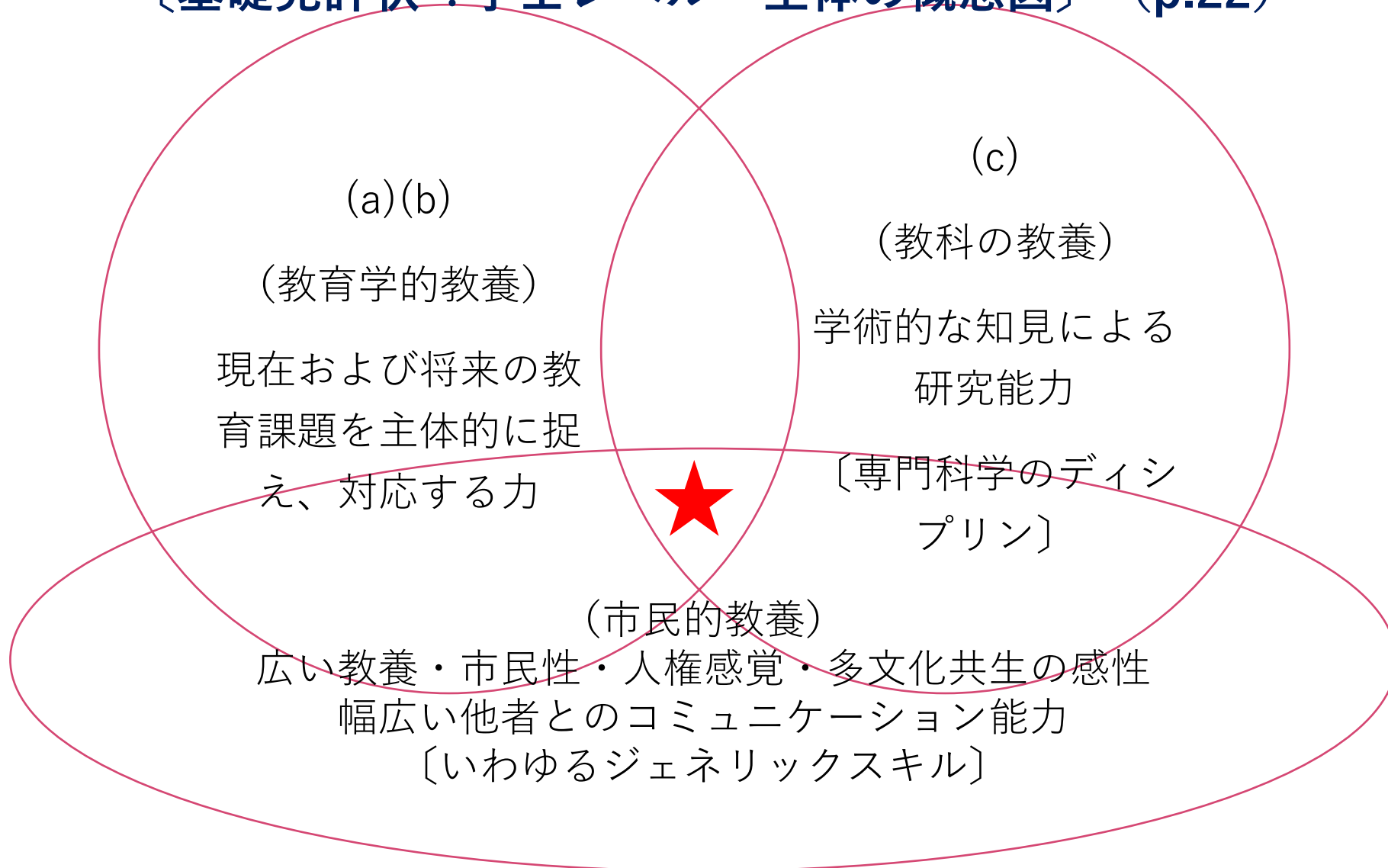
「教職課程」固有か、ジェネリックスキルか？

「上から」の提示≒自らの気づき・発見

課題自体を知る≒課題を把握し研究する方法を知る

大学教育一般の課題として各大学が主体的に引き取る

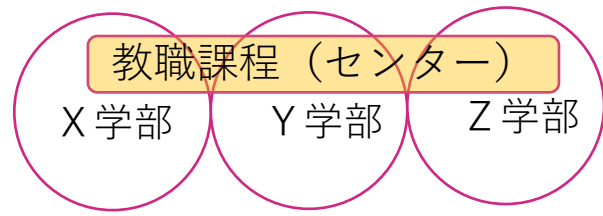
「大学における教員養成」エッセンシャルカリキュラム 〔基礎免許状≒学士レベル・全体の概念図〕 (p.22)



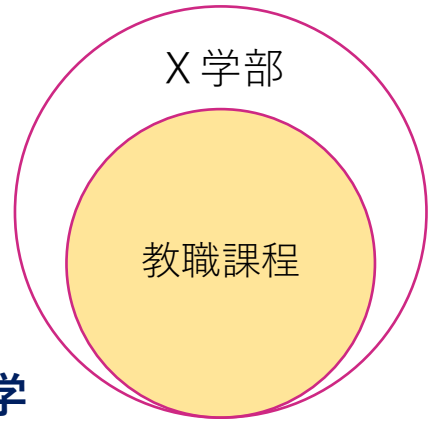
留意点：大学類型の多様性 (p.23)



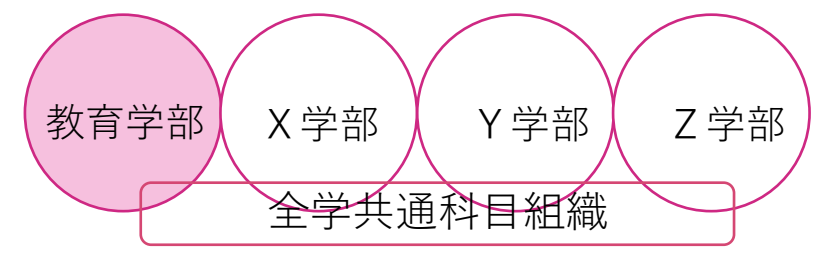
教員養成系単科大学



大規模総合大学



小規模単科大学



教育学部を含む総合大学

ポイント(1)：コンテンツ主義からの脱却

教育学的教養（≡教職専門）

- (a)教育課題と対応を知る→(b)教育課題の捉え方を知り、自ら課題解決の方法を探る（→実践する）

教科の教養（≡教科専門）

- 各教科のコンテンツを知る→(c)専門科学のディシプリンを身につける

ポイント(2)：全体像と相互の連関★

(a) 教育現場の喫緊の課題に応える力量

(b) 将来の教育課題に応える視野をもって教育現場の課題に向き合える力量

(c) 学術的な知見による研究能力

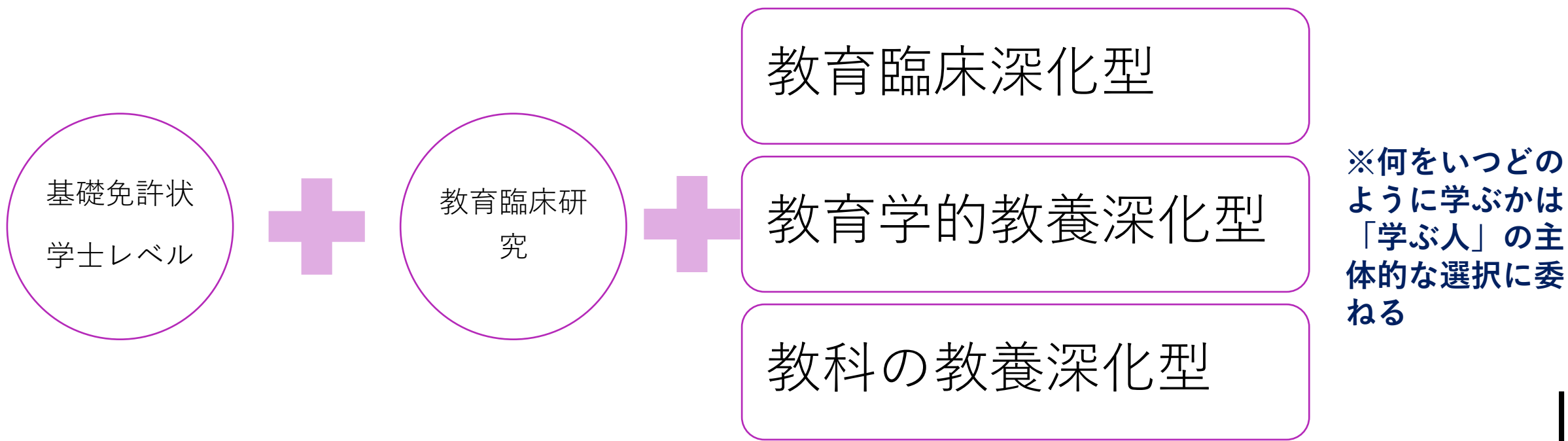


(a)(b)(c) それぞれを確保することに加えて

基盤となる市民的教養＋相互の関連性（スライド5頁の★）

（例）××の授業場面において求められる多文化共生の感性とは？

ポイント(3)：「さらなる学び」への見通し



以下、主に制度的な観点から（勝野報告）